

2023年度 院内研修
誠愛リハビリテーション病院
リハビリテーション部
医療安全

リハビリテーション部
飛永 浩一郎

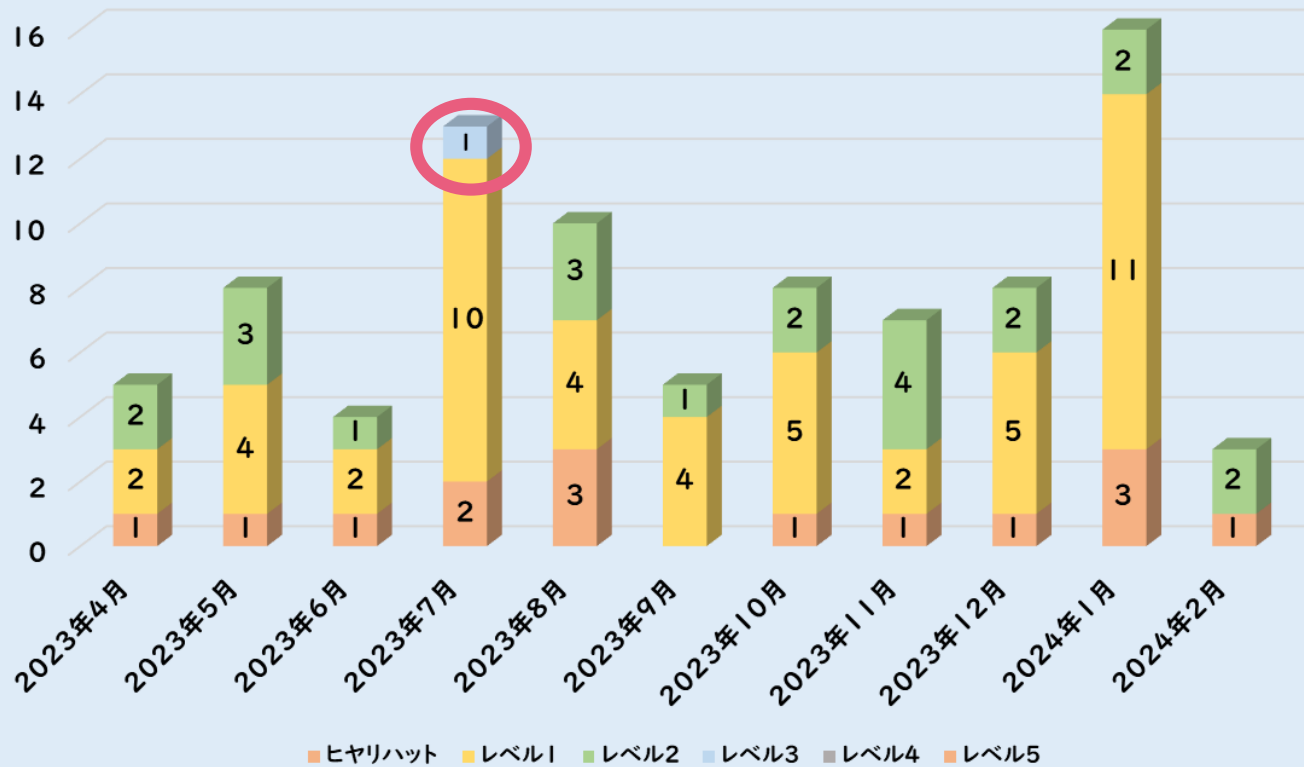
リハビリテーション医療における安全管理

リハ部門は日常臨床を見る限り、医療部門の中でもハイリスクの患者が集まっているところである。ほとんどの対象者は運動器の障害を有していることが多く、全身的な合併症を伴っている場合も少なくない。また、精神・知的障害や高次脳機能障害を伴う場合には患者自身によるリスク管理が困難なことも多い。一方、転倒や合併症を危惧するあまり運動練習などのリハを実施しないと廃用症候群をまねく危険があり、そのことは患者にとってマイナスとなる。

前田 真治 (Jpn J Rehabil Med 2007 ; 44 : 384.390)

2023年度事故報告分析 (2023年4月～2024年2月)

2023年度医療事故分析(リハ部)



レベル別	ヒヤリハット	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	合計
2023年4月	1	2	2				5
2023年5月	1	4	3				8
2023年6月	1	2	1				4
2023年7月	2	10		1			13
2023年8月	3	4	3				10
2023年9月		4	1				5
2023年10月	1	5	2				8
2023年11月	1	2	4				7
2023年12月	1	5	2				8
2024年1月	3	11	2				16
2024年2月	1		2				3
合計	15	49	22	1	0	0	87

ヒヤリハット

レベル1：障害なし

レベル2：障害残存の可能性なし

レベル3：障害残存の可能性がある（低い）

レベル4：障害残存の可能性がある（高い）

レベル5：死亡

警鐘事例①

・屋外歩行練習で杖が滑り介助が間に合わず転倒し骨折

状況) 室外機の水が流れており、滑りやすい状況であった

対策) 室外機周辺の路面の清掃を実施(滑りやすい状態の改善は難しいため通行止めとした)
歩行練習時は路面の状態を確認し実施すること
転倒の可能性も考え、介助できる位置や対応できるように準備しておくこと

記録) 事件事例の記録は、事実(事象内容と説明について)を客観的に記録する(主観的内容にしない)

・指示の不履行(患者さんの荷重を遵守出来ていない重大事例)

状況) 完全免荷の患者さんの歩行練習を平行棒で行う際、患肢の足先をついた状態で行った

対策) ・骨折の患者さんは必ず荷重を確認する事

・医師の指示を確認・遵守する事

(医師はリハの指示に荷重の時期・日付を記載する)

・荷重に関する知識、荷重時期に合わせたリハについての知識・技術を身に付けること

・分からない事があれば、必ず確認する

警鐘事例②

歩行介助時の転倒

状況) 歩行介助時、腋下を支持し、そこを中心に回転するようにして転倒

対策) 歩行介助時、腋下点支持は行わない。

介助は2点支持で行う。

転倒する可能性とその際の対応方法も考えて介助する。

患者さんから目を離さず、介助できる位置で行う

転倒する可能性も考え、介助できる位置や方法で実施する

歩行時腋窩支持による転倒

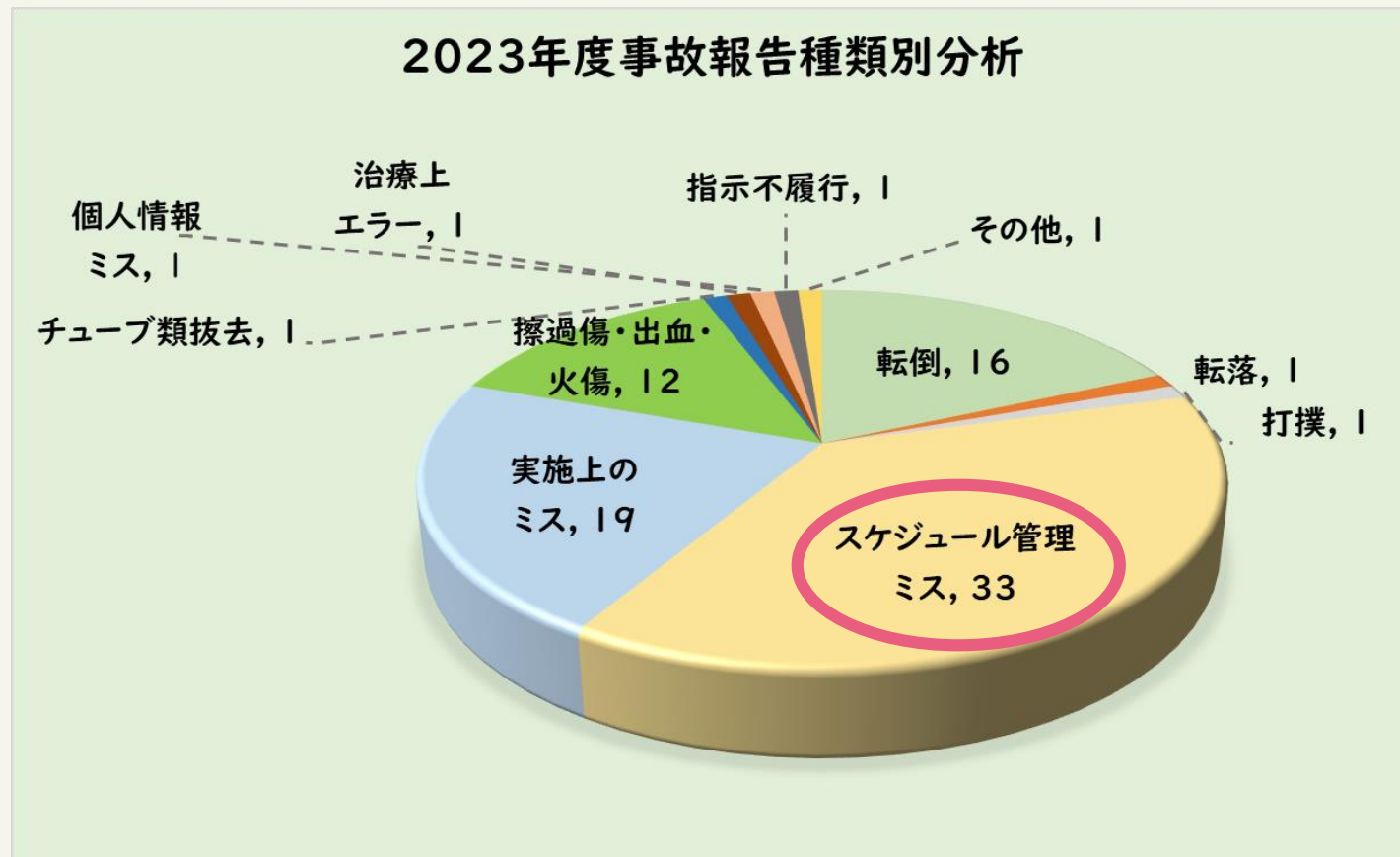


ひっかかりやバランスを崩して
腋窩を軸に回転



2点支持が出来るように介助する
転倒する可能性とその際の対応方法も考えて介助する

2023年度事故報告種類別分析 (2023年4月～2024年2月)



種類別	転倒	転落	打撲	スケジュール管理ミス	実施上のミス	擦過傷・出血・火傷	チューブ類抜去	治療上エラー	個人情報ミス	指示不履行	その他	合計
合計	16	1	1	33	19	12	1	1	1	1	1	87

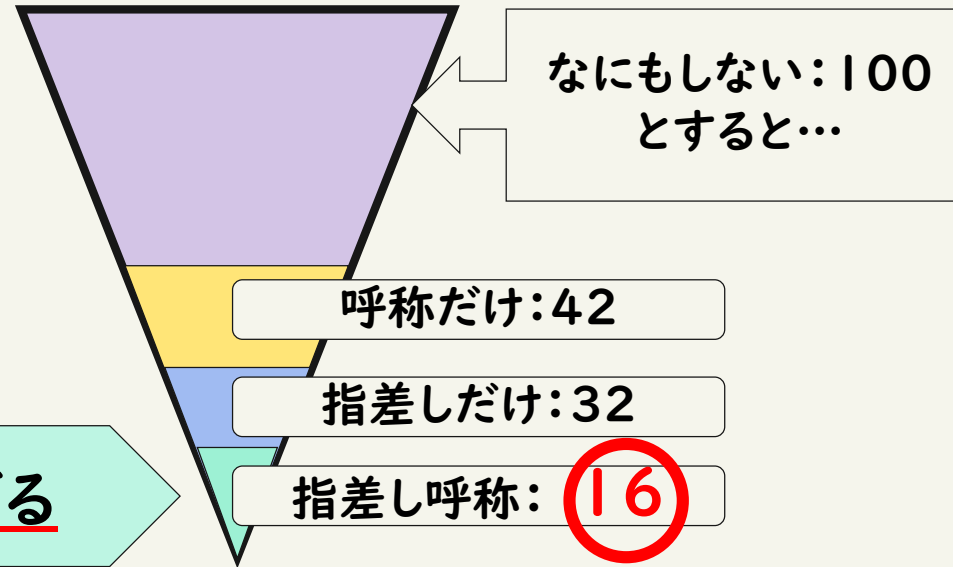
最多事例～スケジュール管理ミス

- ・昨年度に続き本年度も「スケジュール管理ミス」が最も多い報告事例でした
対策の一つ) 指差し確認

*確認方法でよく用いられる「指差し呼称」について知りましょう

指差し呼称の効果

- 注意の方向付け
- 多重確認の効果
- 脳の覚醒
- 焦燥反応の防止



指差し呼称で事故は 1/6 に防げる



小さい声でもいいので確認作業を「指差し呼称」で行ってみましょう